発信人 日本国特許庁(国際調査機関)

1人 日本国行前77 (日本)	
万人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也	WIPO
模	VVIII THE THE PERSON OF THE PE
て名 〒 105-0001 東京都港区虎ノ門2-7-7 虎ノ門中田ビル4階	PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]
パノウ中国 L / V 4	
	^{発送日} (日. 月. 年) 29. 3. 2005
	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
願人又は代理人 書類記号 ASAHI-49	
国際出願番号 CT/JP2005/001102 (日.月.年) 27. 0	優先日 1.2005 (日.月.年) 29.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C07D401/12,	A61K31/4375, A61P9/00,
A 6 1 P 4 3 / 0 0	
	•
出願人(氏名又は名称) ・ 旭化成ファー	マ株式会社
それを裏付けるための文献及び説明 第VI欄 ある種の引用文献 第VI欄 国際出願の不備 第VI欄 国際出願に対する意見	新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
際予備審査機関がPCT規則66.102(6)の規定に基づい、 ない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見	間査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 で国際調査機関の見解審を国際予備審査機関の見解書とみなる 見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
63月又は優先日から22月のうらいすれか近く間ファウ な場合は補正むとともに、答弁書を提出することができる	
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照で	
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	参照すること。
<u></u>	
見解審を作成した日 14.03.2005	·
夕称及びあて先	特許庁審査官 (権限のある職員) 原田 隆興
日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915	電話番号 03-3581-1101 内線 3492

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

国	祭調査機関の見解書		国際出願番号 PCI	/ JP 2 0 0 5	
I 楓 見解の基礎					_
	記に示す場合を除くほか、国際	出願の言語を基	礎として作成された。		
		oman A. A. Hirith L.	して作成した。		
この見解書は、 それは国際調査	語による をのために提出された P C T 規則	翻訳文を基礎と 12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語	i である。	
	示されかつ請求の範囲に係る発	細に不可欠かる	クレオチド又はアミノ	酸配列に関して	
- この国際出願で開 以下に基づき見解	示されかつ請求の範囲に係る発達を作成した。	けられていいいりいかと			
a. タイプ	配列表				
-	配列表に関連するテー	ブル		•	
•					
b. フォーマット	小村工	TAD & NG T	•		
•	□ コンピュータ読み取り	可能な形式		•	
.a1 .n 1. 41 0	出願時の国際出願に含	まれる			
c. 提出時期	この国際出願と共にコ		取り可能な形式により)提出された	
	出願後に、調査のため	た、この国際関	省金機関に延出 040/0	•	,
	列表又は配列表に関連するテー	ブルを提出した	場合に、出願後に提出	した配列若しく	は追加して提出し
) さらに、配 た配列が出	列表又は配列表に関連するテー 願時に提出した配列と同一であ	る旨、又は、出	願時の開示を超える事	項を含まない旨	の陳述書の提出が
あった。		•	•		•
1. 補足意見:	•				
	•		•		•
	·		·		
•				•	•
		•			
	•		,		
	,				
•	•			•	
	•			•	•
•					
					-
	• '				•
	\				
		•			•
					•
		•			

	= - IDTUIO 00 1(a)	(:) に党みる単僻
V欄 新規性、進歩性又は産業上の	利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)	(1) (CAE 0) (3 96) 941,
それを裏付る文献及び説明		•
. 見解		
. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	•	
ACHAR (NI)	請求の範囲 1-4	
新規性(N)	請求の範囲	
		•
進歩性(IS)	請求の範囲	
進少在(10)	請求の範囲 1-4	
•		
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-4	
压光工-2/4/10 11-1-	請求の範囲	
2. 文献及び説明		
文献1	581 A, (旭化成工業株式:	会社),
1 2 2 2 3 2 0 (Q	
サンス は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	業上の利用分野、第2頁右下欄	化合物(1)
文献 2	2658 A, (旭化成工業株式	会社),
	7	
は 1900.01	産業上の利用分野、第5頁左上欄	化合物(60)
		•
	162824 A1, (Elaine S	S. Krul et al)
05 2000/	28、特許請求の範囲	
ZUUS. U4.		
(1) 請求の範囲 1	- 4 について	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

で引用された文献1-3によって、進歩性 を有しない。

文献1または2には、スルホン基を有するイソキノリン誘導体が、血管拡張剤、 狭心症治療薬等の予防治療薬として有効であることが記載されている。

文献3には、シクロオキシゲナーゼー1を含んでなる炎症関連の心臓血管系疾患 の治療または予防方法が記載されており、心臓血管系疾患には、バイパス手術に伴 う炎症が含まれること、当該方法には、ファスジル (fasudil) 等の血管拡張剤を 併用し得ることことが記載されている。

文献1-3に記載の発明は、心臓血管系疾患の予防治療という共通の技術分野に 係るものであって、文献3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つである バイパス手術に伴う炎症にも適用し得ること、併用される薬ではあるが、ファスジ ル(fasudil)が、心臓血管系疾患の予防治療に使用されることが読みとれる。

したがって、文献1または2に記載のスルホン基を有するイソキノリン誘導体 を、文献3の記載のとおり、バイパス手術に伴う炎症の心臓血管系疾患の治療また は予防に使用することによって、請求の範囲1-4に係る発明を導くことは当業者 にとって容易である。

発信人 日本国特許庁(国際調査機関)

一一一一	4 44 5 4000
出願人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也 様	WIPO
あて名 〒 105-0001 東京都港区虎ノ門2-7-7 虎ノ門中田ビル4階	PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]
	発送日 (日. 月. 年) 29. 3. 2005
出願人又は代理人 の書類記号 ASAHI-49	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/001102 (日.月.年) 27.0	優先日 1.2005 (日.月.年) 29.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. C1 ⁷ C07D401/12,	A61K31/4375, A61P9/00,
A61P43/00 出願人 (氏名又は名称) 旭化成ファー	マ株式会社
それを裏付けるための文献及び説明 第VI欄 ある種の引用文献 第VI欄 国際出願の不備 第WI欄 国際出願に対する意見	新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
際予備審査機関が P C T 規則 bb. 102 (b) の	トゥトゥス州会 選式PCT/ISA/220を送付した日かり
53月又は優先日から22月のうらいりれたが遅く高うする な場合は補正哲とともに、答弁書を提出することができる	5.
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照で	
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	参照すること。
、見解審を作成した日 14.03.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官 (権限のある職員) 原田 隆興
郵便番号100-8915 東京都千代田区段が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3492

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

欄 見解の基礎		
この見解書は、下	記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。	•
」 この見解害は、 それは国際調	、 語による翻訳文を基礎として作成した。 査のために提出された P C T 規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語であ	る。
この国際出願で開 以下に基づき見解	開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配 解審を作成した。	2列に関して、
. タイプ	□ 配列表	
	■ 配列表に関連するテーブル	•
. フォーマット	一	
•	□ コンピュータ読み取り可能な形式	
c.提出時期	□ 出願時の国際出願に含まれる	•
	□ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出	された
•	── 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された	, ,
	•	
1. 補足意見:		
•		•
	,	
•		•
	•	
÷	•	
	•	
	•	

ET DIVENOET INCH		
第V欄 新規性、進歩性又は産業上 それを裏付る文献及び説明	-の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、 月	
1. 見解		
新規性(N)	請求の範囲 <u>1-4</u> 請求の範囲	有 無
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲 <u>1-4</u>	有
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-4	有 無
1986.10. 特許請求の範囲、 文献2 JP 61-15 1986.07. 特許請求の範囲、 文献3 US 2003/	産業上の利用分野、第2頁石下側10円物(1) 2658 A, (旭化成工業株式会社),	
/1 キサの然田1	1 ー 4 について	- 02 - 06 131

(1) 請求の範囲1-4について

請求の範囲1-4は、国際調査報告書で引用された文献1-3によって、進歩性 を有しない。

文献1または2には、スルホン基を有するイソキノリン誘導体が、血管拡張剤、 狭心症治療薬等の予防治療薬として有効であることが記載されている。

文献3には、シクロオキシゲナーゼー1を含んでなる炎症関連の心臓血管系疾患 の治療または予防方法が記載されており、心臓血管系疾患には、バイパス手術に伴 う炎症が含まれること、当該方法には、ファスジル (fasudil) 等の血管拡張剤を 併用し得ることことが記載されている。

文献1-3に記載の発明は、心臓血管系疾患の予防治療という共通の技術分野に 係るものであって、文献3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つである バイパス手術に伴う炎症にも適用し得ること、併用される薬ではあるが、ファスジ ル(fasudil)が、心臓血管系疾患の予防治療に使用されることが読みとれる。

したがって、文献1または2に記載のスルホン基を有するイソキノリン誘導体 を、文献3の記載のとおり、バイパス手術に伴う炎症の心臓血管系疾患の治療また は予防に使用することによって、請求の範囲1-4に係る発明を導くことは当業者 にとって容易である。

発信人 日本国特許庁(国際調査機関)

号人 「A因行肝/」(国际Manaco	
顏人代理人	REC'D 3 1 MAR 2005
藤野 清也	WIPO
₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩	
て名	PCT
〒 105-0001	国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2)
東京都港区虎ノ門2ー7-7	(佐施1)が切み40米ジング (PCT規則43の2.1)
虎ノ門中田ビル4階	
	発送日 (日. 月. 年) 29. 3. 2005
	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
順人又は代理人 書類記号 ASAHI-49	
国際出願日	優先日
CT/JP2005/001102 (日.月.年) 27. (01.2005 (日.月.年) 29.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' C07D401/12	, A61K31/4375, A61P9/00,
A61P43/00	
11年1 (年4月)	
担化成ファー	-マ株式会社
日の中となの内容を今む	
1. この見解書は次の内容を含む。 X 第 I	
一 第 1 郷 - 係 先 権	
一	能性についての見解の不作成
一 n c の 相 即 は 2 の 2 1 (a) (i) に 規定す	る新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
X 第V欄 PCT規則43の2.1(a) (1) に	
第VI欄 ある種の引用文献	
	·
第四間国際田願に対する息兄	
際予備審査機関がPCT規則66.102(6)の規定に基づいたいにを国際事務局に通知していた場合を除いて、この	調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 て国際調査機関の見解審を国際予備審査機関の見解書とみなさ 見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
	エカントスセム 送式PCT/ISA/220を送付した日か
し こうちゅう ユ 何 中 ロ ふくと ク ク 日 (/) り わりり 4 しんだと へ 10/ 1 プ	
た3月又は優先日から22万つうった。 お場合は補正むとともに、答弁書を提出することができ	
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照	
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を	と参照すること。
見解書を作成した日	•
1.4. 03. 2005	4P 916
	特許庁審査官(権限のめる拠界/
名称及びあて先	原田 隆興
P太国赎許庁(ISA/JP)	
日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区段が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3492

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

国際調査機関の見解書	
	を基礎として作成された。
この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を	
	礎として作成した。 ・ 141 にいる知识文の言語である。
」この見解書は、 品による研防人を超が それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23	3. 1 (b) (こいり知め人の日間 くの 0 °
·	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠	なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。	
. タイプ □ 配列表	
□ 配列表に関連するテーブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-
, Character	•
). フォーマット	
□ コンピュータ読み取り可能な形式	•
c. 提出時期	
□ - の国際出願と共にコンピュータ	読み取り可能な形式により提出された
•	
出願後に、調査のために、この国]院調査機関に延出された。
•	2000年後に担用した配列港しくは追加して提出
. こ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出	した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出 、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出
た配列が出願時に提出した配列と同一である旨、人は、	
あった。	
.補足意見:	•
	· .
•	
•	
	•
,	
	·
•	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
•	
	• •

	The state of the s	
第V村	欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、 それを裏付る文献及び説明	
1.	見解	
; 	新規性 (N)	有 無
-	進歩性 (IS)	有 無
-	産業上の利用可能性 (IA) 請求の範囲 <u>1-4</u>	有 無
2.	文献及び説明	·
	文献1 JP 61-227581 A, (旭化成工業株式会社), 1986.10.09 特許請求の範囲、産業上の利用分野、第2頁右下欄化合物(1) 文献2 JP 61-152658 A, (旭化成工業株式会社), 1986.07.11 特許請求の範囲、産業上の利用分野、第5頁左上欄化合物(60) 文献3	·
	文献3 US 2003/162824 A1, (Elaine S. Krul et al) 2003.04.28、特許請求の範囲	
	(1)請求の範囲1-4について	、進歩性

請求の範囲1-4は、国際調査報告書で引用された文献1-3によって、進歩性を有しない。

文献1または2には、スルホン基を有するイソキノリン誘導体が、血管拡張剤、 文献1または2には、スルホン基を有するイソキノリン誘導体が、血管拡張剤、 狭心症治療薬等の予防治療薬として有効であることが記載されている。

文献3には、シクロオキシゲナーゼー1を含んでなる炎症関連の心臓血管系疾患の治療または予防方法が記載されており、心臓血管系疾患には、バイパス手術に伴の治療または予防方法が記載されており、心臓血管系疾患には、バイパス手術に伴う炎症が含まれること、当該方法には、ファスジル(fasudil)等の血管拡張剤を併用し得ることことが記載されている。

文献1-3に記載の発明は、心臓血管系疾患の予防治療という共通の技術分野に係るものであって、文献3の記載から、同一の薬が、心臓血管系疾患の一つであるバイパス手術に伴う炎症にも適用し得ること、併用される薬ではあるが、ファスジル (fasudil) が、心臓血管系疾患の予防治療に使用されることが読みとれる。

したがって、文献1または2に記載のスルホン基を有するイソキノリン誘導体を、文献3の記載のとおり、バイパス手術に伴う炎症の心臓血管系疾患の治療または予防に使用することによって、請求の範囲1-4に係る発明を導くことは当業者にとって容易である。